

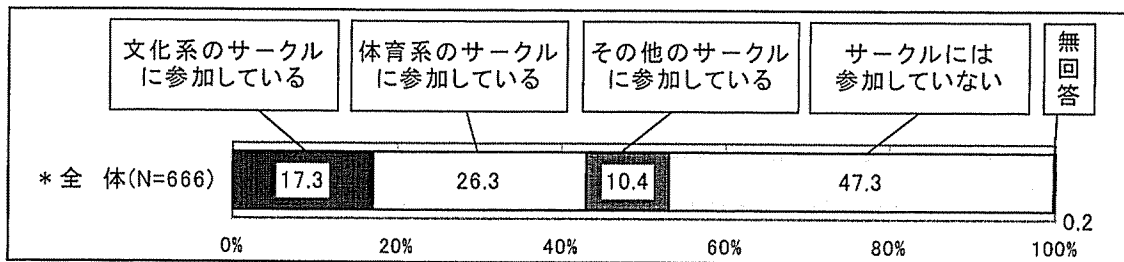
(2) 集団参加と活動性

① サークル活動

学生にとってサークルは、勉学の間であるクラスやゼミとならんで、人間形成の上でも友人獲得の上でも、重要な機能を持った集団といえる。今回の調査においても、半数の者が何らかのサークルに所属していると答えている。学年が上になると非参加者の割合が多少増える傾向がみられるが、男女を問わず、また、居住様式の如何にかかわらず、サークル加入者の割合は変わらない。

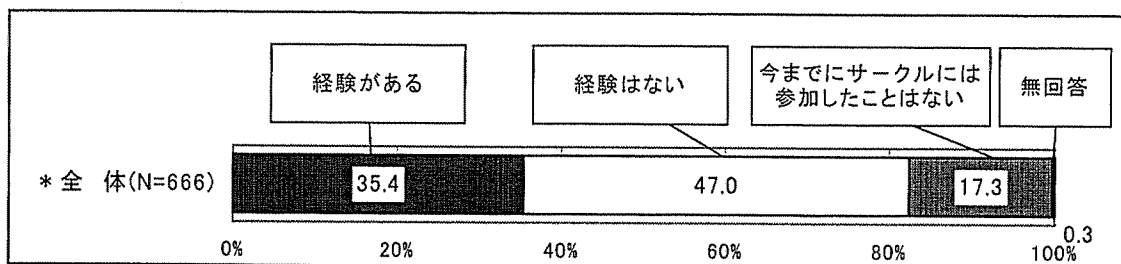
過去まで含めると、サークル参加経験者は8割を超える。

(図表 30) サークル活動の参加



そうした加入サークルの中で、部長や役員などになって積極的な活動をした経験の有無をたずねたところ、35.4%の者が「経験あり」と答えている。

(図表 31) サークルの部長や役員経験



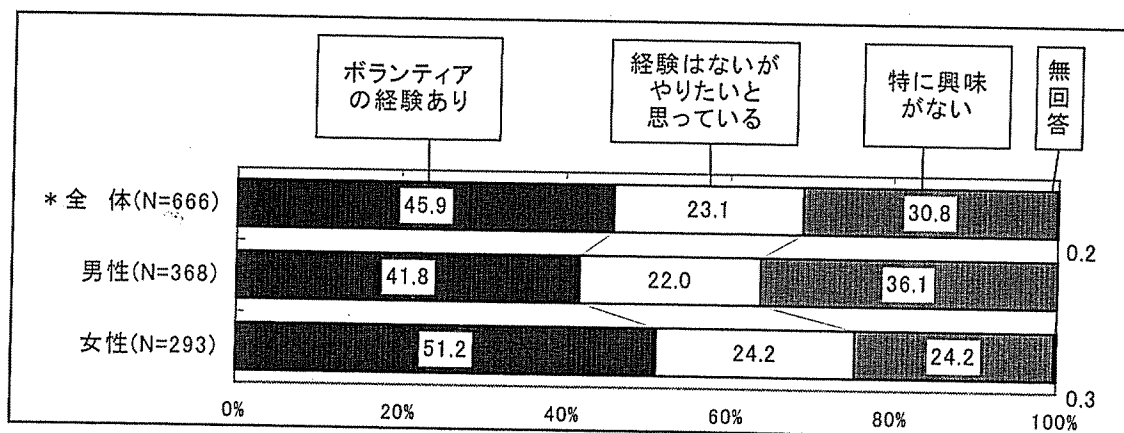
② ボランティア活動

最近社会活動の中で注目を浴びているものの1つにボランティア活動がある。その具体的内容は多岐にわたり、参加の様式もさまざまであるが、学業とならんで学生にとっても重要な活動と見なされてきている。ボランティア活動への参加を修得単位数に加算する大学さえ出てきている。

今回の調査結果をみても、「ボランティア経験をもつ」者は「現在活動している」者を含めて半数近くを占めている。「経験はないがやりたいと思っている」ボランティア予備軍を合わせると、7割に達する。サークルとならんで、学生生活にとって大きな課外活動の場といえよう。

また、ボランティア志向は男性に比べて女性の方にやや強い傾向がみられる。

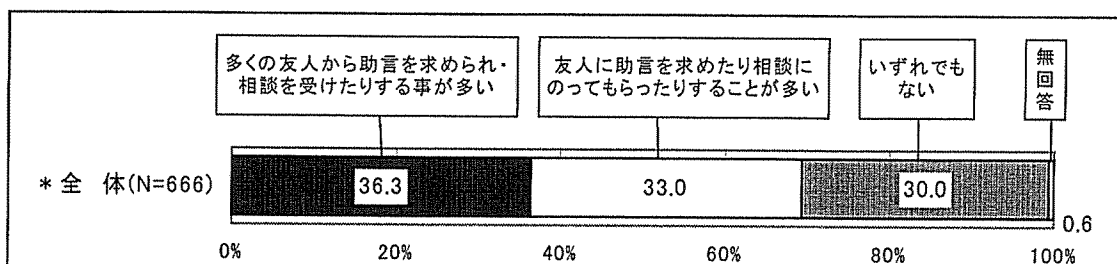
(図表 32) ボランティア経験



③ リーダーシップ

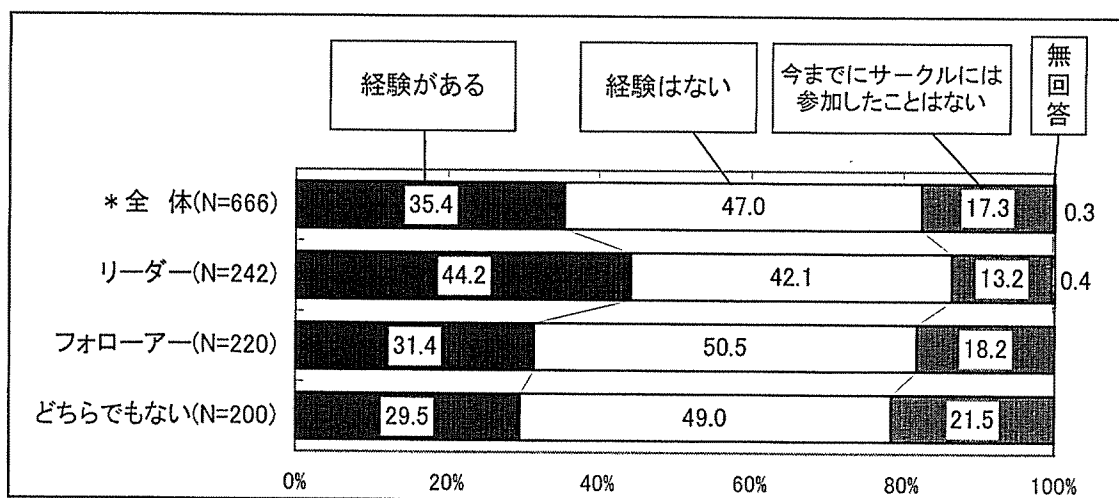
サークル活動において部長や役員などの経験をもつ者が35%余りいることをみたが、より一般的な場で、「友人から助言を求められたり相談を受けることが多い（リーダー）」か、それとも「友人に助言を求めたり相談にのってもらったことが多い（フォロアー）」かをたずねて、活動性あるいはリーダーシップ特性といったものの検出を試みた。結果は「リーダー」「フォロアー」「いずれでもない」の3グループに、ほぼ均等に分かれた。

(図表 33) 当てはまる友人との相談関係



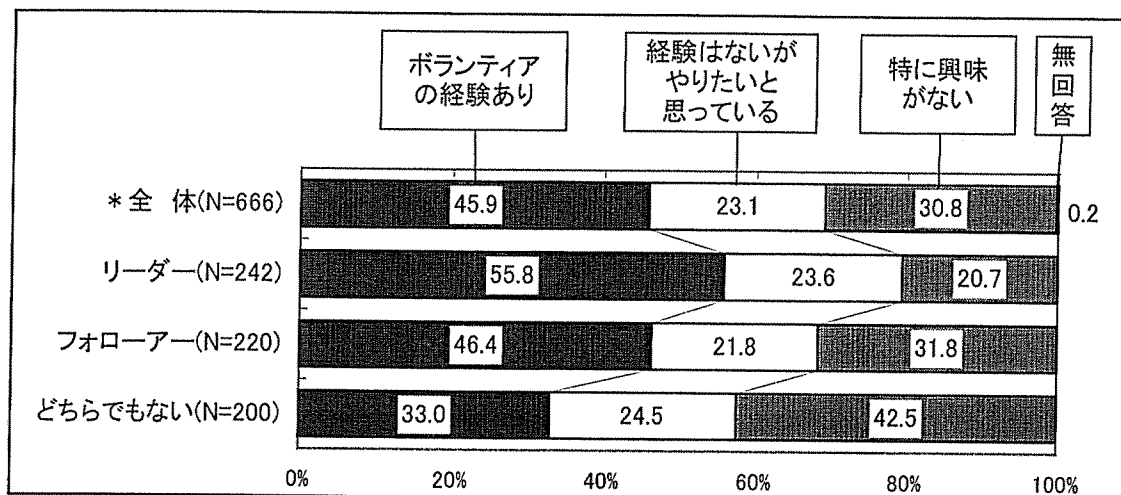
この結果をサークルでの部長・役員経験の有無とクロスしてみたところ、「リーダー」は「フォロアー」「いずれでもない」の両者に比べて、サークルでの役職経験をもつものの割合が多く、反対に「フォロアー」および「いずれでもない」者は役職経験を持たない者およびサークル参加経験のないものの割合が、「リーダー」に比べて高かった。

(図表 34) サークルの部長や役員経験



また、ボランティア経験の有無とリーダーシップとの関連をみても、「リーダー」は他の2者に比べて経験者の割合が高く、「どちらでもない」ものにボランティア活動に関心を示さない者の割合が相対的に多くみられた。

(図表 35) ボランティア経験



以上のことから、リーダーシップ特性を持った者は所属団体において積極的なメンバーであるばかりでなく、身近な環境の外にある集団活動に対しても積極的な姿勢を示す存在であるということができよう。